

二〇一三年一〇月三日(神戸異人館通参加者二三名)

秋雨に彩深めゆく里山路	わかば
秋霖の石畳踏む北野坂	"
一望の港は指呼の霧の中	"
カラフルな時雨傘行く北野坂	百合
秋思否ベンチでひとり推敲す	"
一陣の風に耀ふ花芒	"
秋灯下おもちやの木馬歩きそう	菜々
秋しぐれ街灯灯る北野坂	"
木守柿築一世紀てふ異人館	"
身じろがず秋雨そぼつ風見鶏	満天
蔦覆ふ珈琲館の昼灯	"
震災に落ちし煙突身にぞ入む	"
レトロなる時計の音や秋灯下	宏虎
宮うらら英語韓語の絵馬混じる	"
トランペット吹いてる像に秋しぐれ	つくし
街灯の灯る北野の時雨坂	"
小鳥来る庭の要の大楠へ	きづな
異人館板の間光る秋灯し	"

秋霖に濡れて無聊や風見鶏	ひかり
新蕎麦や看板なせる大水車	ぼんこ
石畳濡れて北野の秋しぐれ	よし子
秋開けて喫茶に一打古時計	小袖
宮うらら叶ひ恋絵馬連綿と	はく子
蔦紅葉覆ふ老舗の珈琲館	"
秋の雨震禍のままに残る庭	"
秋うらら焼き立てパンの匂ふ路地	"
秋霖に楽士の像の濡れそぼつ	"

吟行句会みの選

二〇一三年一〇月三日(神戸異人館通参加者二三名)